お口からはじまるまちづくりの

虎の巻

～住民参加型地域歯科保健活動のスタートアップ～

は～もに～ぷろじぇくと

Workshop on Dental Health

IN NIIGATA

はじめに

「元気で長生き」は全ての人たちの願いです。お口の健康づくりは切り離せない重要なテーマです。もちろん、お口の健康だけで「元気で長生き」を達成することはできません。しかし、お口の健康なしでは「元気で長生き」はかないません。歯科保健ではお口の健康を保てる方法を持っていながらなかなか住民の方の心をつかむことができませんでした。いかにしたら住民の方と伴にお口の健康づくりをすすめることができるのでしょうか。

健康づくりを進めるのは、従来のような行政主導のやり方だけでなく、地域として取り組むことが求められています。近年、「ソーシャルキャピタル」や「新しい公共」が提唱され、「人々やコミュニティーに内在している信頼や絆、コミュニケーションを高める努力をしていくことがこれからの有効な公共活動のありかた」と考えられています。歯科保健においても、様々な関連者（団体）とのネットワークを広げ、地域として新たな取り組みを考えていく必要があります。

私たちは、それを達成するための手法を「まちづくり」に求めました。NPO法人まちづくり学校の全面的な協力を得ながら「住民参加型歯科保健活動」を進めることを決意し、「は～もに～プロジェクト」を立ち上げました。さまざまな実験プロジェクトを通し、「住民参加型歯科保健活動」をすすめるには住民だけではなく、歯科医師（会）側も意識を変えていく必要があることがわかりました。

平成20年に発刊した本資料の姉妹本である『歯医者さんがまちづくりNPOにであった！（新潟日報事業社）』では、私たちが「住民参加型歯科保健活動」を始めるきっかけや活動内容を中心に紹介してきました。本資料ではなぜ「住民参加型歯科保健活動」を進めなければいけないのか。またどのように仲間を集めればいいのか等。だれもが最初に感じる疑問や質問に答える形で理解を深めていただこうと思っています。

この資料をもとに「住民参加型歯科保健活動」の第一歩を踏み出してください。

2013年3月

は～もに～プロジェクト 代表
新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野
葭原　明弘

目次

はじめに

1 なぜ、地域歯科保健活動は「住民参加型」で行うべきなのでしょうか？・・・・・ 1

2 住民参加型歯科保健活動では具体的に何がしたいのでしょうか？・・・・・・ 3

3 歯科保健活動を「住民参加型」で実施するとどのような成果があるのですか？・・・ 5

コラム 「学校と連携して行った事業 ～ブース出展と劇の公演～」・・・・・・・・・ 7

4 誰が中心となって動かすのですか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

5 最初にどうやって仲間集め、キーマン探しをすべきでしょうか？・・・・・・・ 11

6 歯科医師(会)は何をすればいいのでしょうか？・・・・・・・・・・・・・・ 13

コラム 「は～もに～プロジェクトの活動紹介
～新潟市の歯科関係者が立ち上げた劇団～」・・・・・・・・・・・・・・ 15

7 トップや地域の理解が得られないときはどうすればよいですか？・・・・・・・ 17

8 地域や住民へはどうPR活動を行えばよいですか？・・・・・・・・・・・・ 19

9 効果的な意見のまとめ方はありますか？・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

10 費用や器具はどうすればよいですか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

住民参加型歯科保健活動のステップ表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

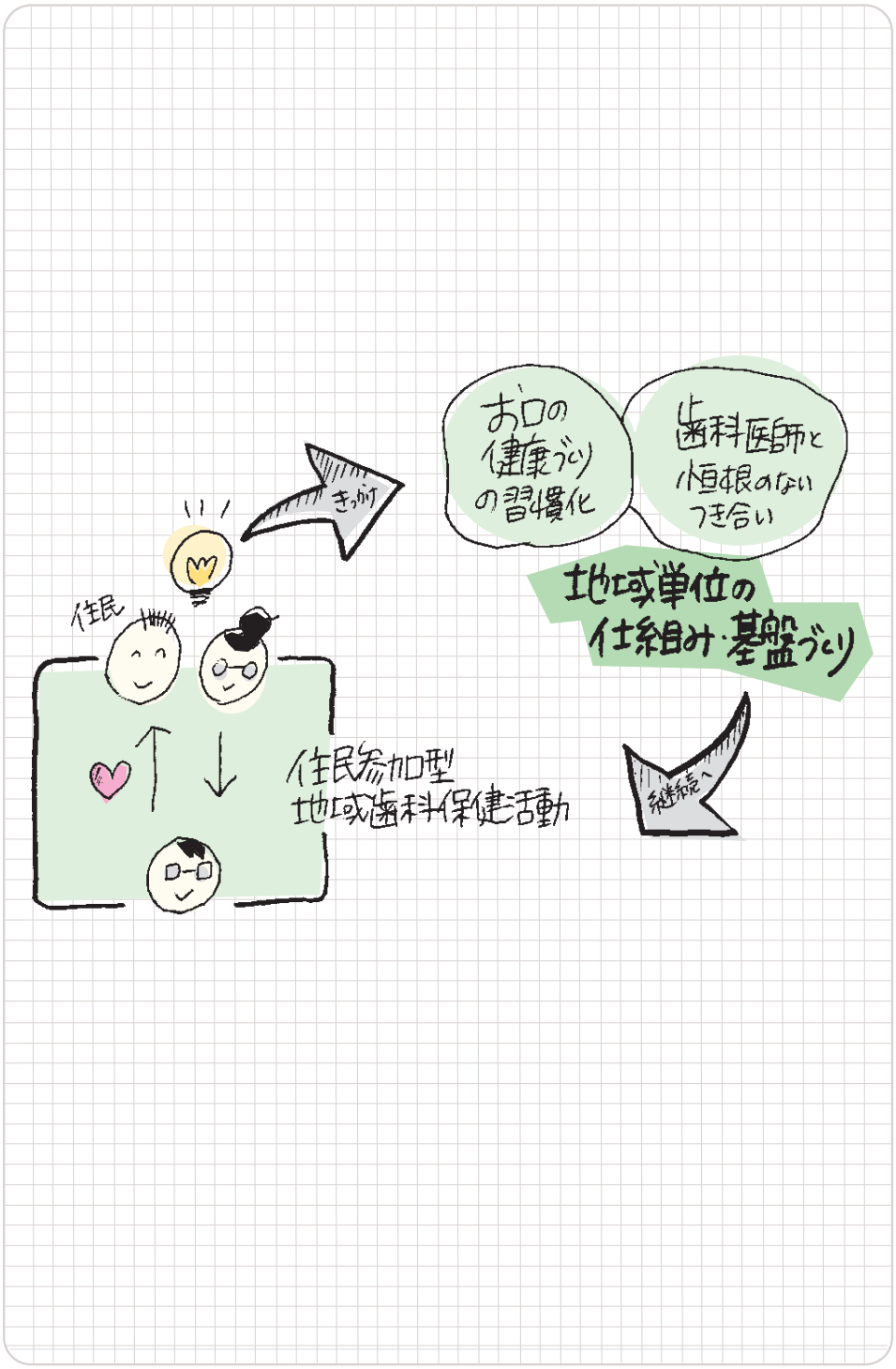
1 なぜ、地域歯科保健活動は「住民参加型」で行うべきなのでしょうか？

A 住民参加の手法を用いると
地域の人々が主体的に取り組むための
「入り口・きっかけ」を作りやすいからです。

〈解説〉

歯科医院で治療を受けることだけでなく、住民自らが行動しなければお口の健康を維持することはできません。ごく当たり前のようにお口の健康づくりが習慣化し、症状がなくても、クリーニング等のメンテナンスを受けるために歯科医院に気軽に通うことができるような環境が求められています。そのためには、住民個々へのアプローチだけでは限界があり、地域としての環境づくりが必要となります。

しかし、従来の行政主導の実施方法だけではなかなか住民の意識を変えることができません。ですから、お口の健康づくりを地域単位で自発的・主体的に取り組む仕組み・基盤づくりが不可欠です。この仕組み・基盤づくりの「入り口・きっかけ」を作りやすいのが、住民参加型の取り組みです。住民参加の手法を用いると、伝える側と受ける側の双方向の意思疎通が可能となり、理解を深める上で非常に有効です。


お口の健康づくりの習慣化
歯科医師と恒根のないつき合い
地域単位の仕組み・基盤づくり
継続へ
きっかけ
住民
住民参加型
地域歯科保健活動

2 住民参加型歯科保健活動では具体的に何がしたいのでしょうか？

A 地域が主体的に歯科保健活動を推進するための機運を高め、独自の仕組み・体制をつくることがねらいです。

〈解説〉

住民参加型歯科保健活動は、むしろ地域の仕組み改善型歯科保健活動と言い換えることができます。

ステップ1

●地域側の意識を変え、お口の健康に対する共通認識の醸成

具体的には、学校、行政、コミュニティ協議会や自治会などの関係者の意識改革です。関係者間でお口の健康に対する共通認識を醸成することが重要なポイントになります。

●歯科医師（会）側の意識改革と体制づくり

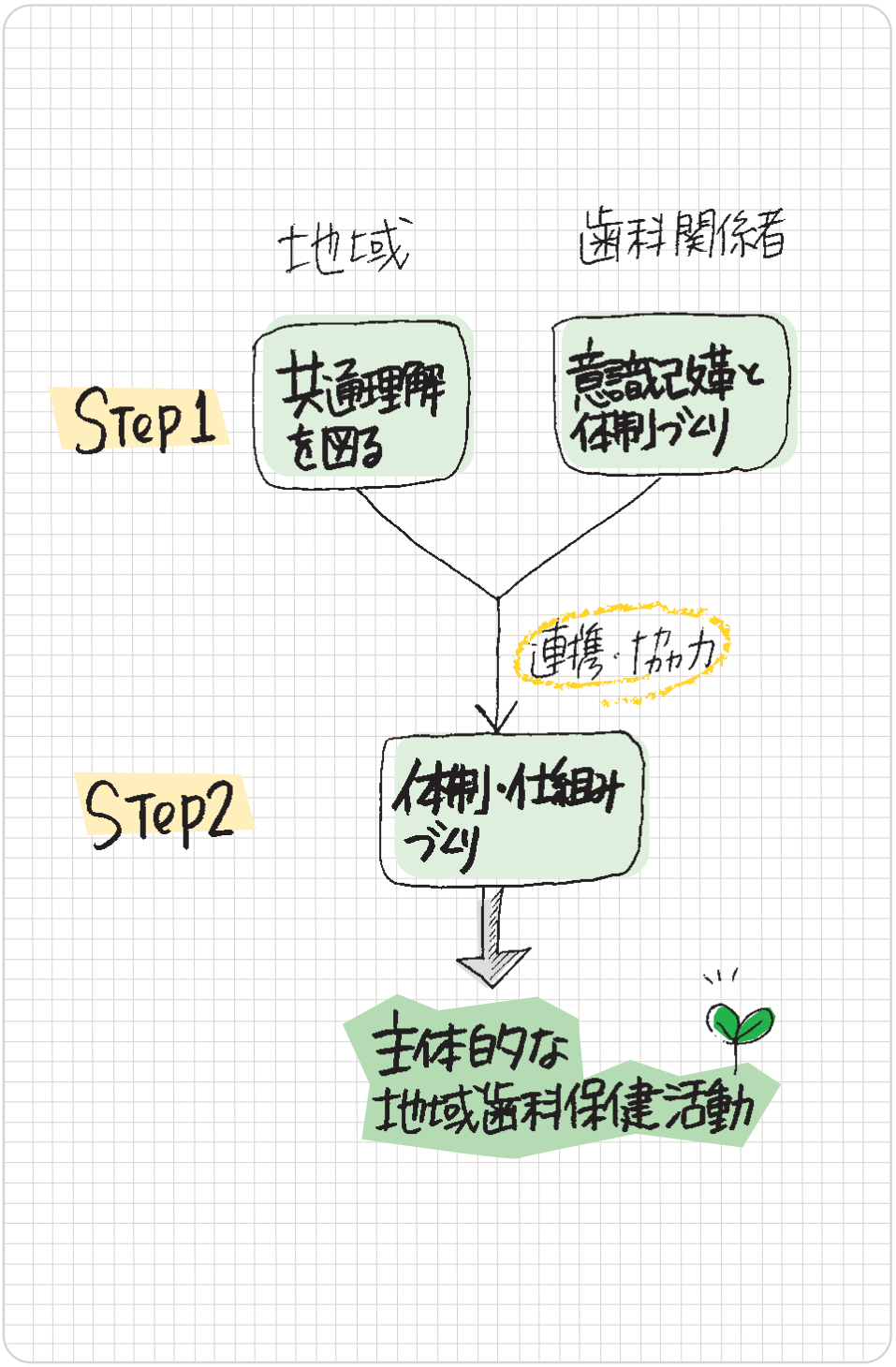
住民と歯科医師の間には、非常に大きな意識のギャップがあります。歯科医師（会）側も地域に目を向け、住民の目線でお口の健康づくりをサポートするという意識改革と体制づくりが必要です。

ステップ2

●連携・協力

地域側と歯科医師側が日常的に連携・協力できるような体制・仕組みを構築します。

以上の２つステップを着実に実行していくことで、地域独自の歯科保健活動の取り組み・仕組みが生まれるようになり、主体的な地域歯科保健活動が芽生えていきます。


地域
歯科関係者
Step1
共通理解を図る
意識啓蒙と体制づくり
連携・サポート
Step2
体制・仕組みづくり
主体的な地域歯科保健活動

3 歯科保健活動を「住民参加型」で実施するとどのような成果があるのですか？

A 活動の浸透度合いや成果が大幅に向上し、地域が「主体的に」歯科保健活動に取り組むようになります。

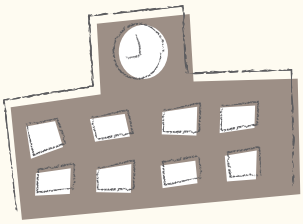
〈解説〉

住民参加型歯科保健活動の成果は、すぐに現れるものではありません。継続して取り組むことで着実に浸透し、数年後に大きな変化として現れます。「地域の体質改善」。これが住民参加型歯科保健活動を行う最大の目的です。

今まで、は～もに～プロジェクトでは様々な取り組みを行ってきました。その結果、地域側から次のような意見が出てきています。

- 歯科医師との関係性が深まることで歯科に対して親近感が湧き、新たな事業を展開するにしても、受け入れてもらいやすくなった。
- 歯科医師自身の意識が変わり、地域内で様々なネットワークが形成された。
- これまでは、「歯科側から地域にお願いする」という一方通行の関係でしかなかったが、活動を進めていくと「地域側から歯科側にお願いが来る」ことが増え始め、双方向の関係が芽生え始めた。

住民参加の成果は？
地域の体質改善
じわり じわり
新たな事業展開
歯科を介したネットワーク
地域と歯科の双方向の関係



学校と連携して行った事業

～ブース出展と劇の公演～

私たちはこれまで、様々な場所に赴き、活動を行ってきました。

小学校の文化祭等におけるブース出展や劇の公演もその中の一つです。学校歯科医の先生、自治体の方からお話をいただいたり、こちらから話を持ちかけるなど、それぞれ経緯は様々ですが、小さいころから歯科に少しでも慣れ親しんでほしいという考えから始まったものです。

ここでは、ある小学校の文化祭でのブース出展について紹介したいと思います。

使用道具例

この出展の際には以下のような内容で行いました。

①咀嚼ガムを用いた「食べる能力チェック」
②咀嚼回数を調べる「かみかみチェック」
③健口くんを用いた「発音チェック」
④リットレメーターを用いた「口の力チェック」
⑤「歯磨き圧の測定」
⑥歯科医師会の方々による「歯科相談」
⑦司書さんによる「絵本の読み聞かせ」

ほぼ全員の子供たち、保護者の方々、先生方や地域の方に来場していただき、大変盛況の中、出展を進めることができました。子供達はチェックの結果に一喜一憂し、楽しみながら歯科に触れることができたようです。また保護者の方々・先生方には、気軽に自分の口の中の疑問や悩みを聞くことができる歯科相談が人気でした。

これからも、このような歯科に気軽に触れられるイベントが増えていき、歯科に対する理解が少しずつでも深まっていくことが必要であると感じました。

新潟大学予防歯科　笹嶋 真嵩

歯科相談を受ける先生と子供たち

発音チェックで競う子供たち

ブース出展関係者の集合写真

4 誰が中心となって動かすのですか？

A まずは住民やＮＰＯと一緒に新たな推進母体を立ち上げましょう！

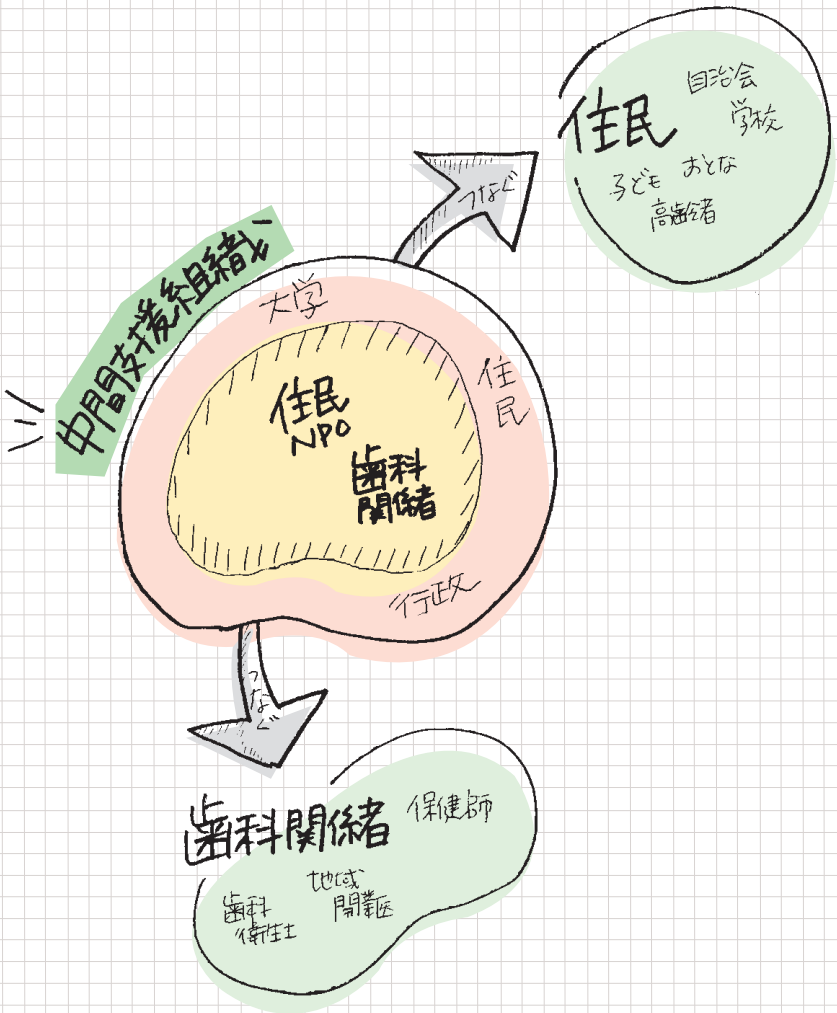
ここが住民参加型歯科保健活動を担う中間支援組織になります

〈解説〉

これまでの歯科保健活動は行政から住民への一方的で垂直的な働きかけが中心で、住民や歯科関係者の意向を反映したものではありませんでした。しかし近年、人々が持つ水平的な信頼関係や人間関係による社会づくり、「ソーシャルキャピタル」という考え方が重要視されており、歯科保健活動でもこの概念を導入することが求められています。

そのためには、地域住民と歯科関係者を繋ぐための中間支援組織の存在が鍵となります。したがって、まずは住民・NPO と歯科関係者が一緒になった推進母体の設立が有効であると考えられます。ここが中間支援組織となって住民・関係者双方への働きかけを行い、お互いをつなぐことで、地域住民が身近な関心事として歯科保健をとらえるきっかけを作ります。最終的には地域住民と地域の歯科関係者による主体的な活動が目標です。両者が自発的に活動を継続させていくことが期待されます。中間支援組織の運営について悩まれた際は、歯科分野にとどまらず、地域の民間 NPO や行政機関に相談することをおすすめします。

は～もに～プロジェクトは、歯科医師会・大学関係者に加え、民間のまちづくり NPO が中心となって作られた中間支援組織です。他の民間 NPO・行政機関との連携の構築についても支援しています。


口腔支援組織
大学
住民
住民
NPO
歯科関係者
行政
つなぐ
住民
自治会
学校
子ども
おとな
高齢者
つなぐ
歯科関係者
保健師
歯科衛生士
地域開業医

5 最初にどうやって仲間集め、キーマン探しをすべきでしょうか。

A とにかく色々な人に会って
自分の想いを伝えること。
その中で共感・理解を示してくれた人が、
人の輪を広げてくれます。

〈解説〉

まずは、色々な分野の人に会って、こちら側の考え・想いを伝えましょう。たくさんの人に会って話をしていく中で、共感・理解を示してくれる人が必ず現れます。そこから人の輪が広がって、仲間が増えていきます。キーマンは、最初からピンポイントで見つかるものではありません。人の輪がある程度形成された中で、浮かび上がってくるものです。

では、最初のとっかかりとして、どこに行けばよいのでしょうか？オススメは、地域にある「市民活動支援センター」です。ここは、市民活動のサポートを行っていますので、こちら側の相談に対しても親身に対応してくれるはずです。場合によっては、キーマンになり得る人を紹介してくれるかもしれません。市民活動支援センターについての情報は、各行政窓口に問い合わせてみて下さい。

市民活動支援センターに相談した際の理想的な流れ

市民活動支援センターに行く

↓

相談し、キーマンを紹介してもらう

↓

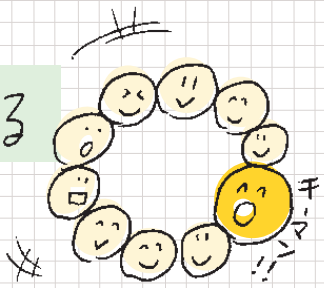
考えや想いを伝える

↓

共感者・理解者をつくる

↓

仲間が集まる



6 歯科医師(会)は何をすればいいのでしょうか？

A まずは診療室から地域に出向いて、積極的に住民や地域の関連団体の方とのコミュニケーションを図ることが重要です。

〈解説〉

地域に出て、住民と同じ目線で意見交換を行うという姿勢がまずは重要です。その中で歯科関係者だけではなく学校や行政、自治会等と強固な人間関係・パイプをつくりましょう。従来のような住民に単に治療を施したり、歯科的な知識や意見を一方的に伝えるだけでは、地域の人々が主体的に活動することは簡単ではありません。

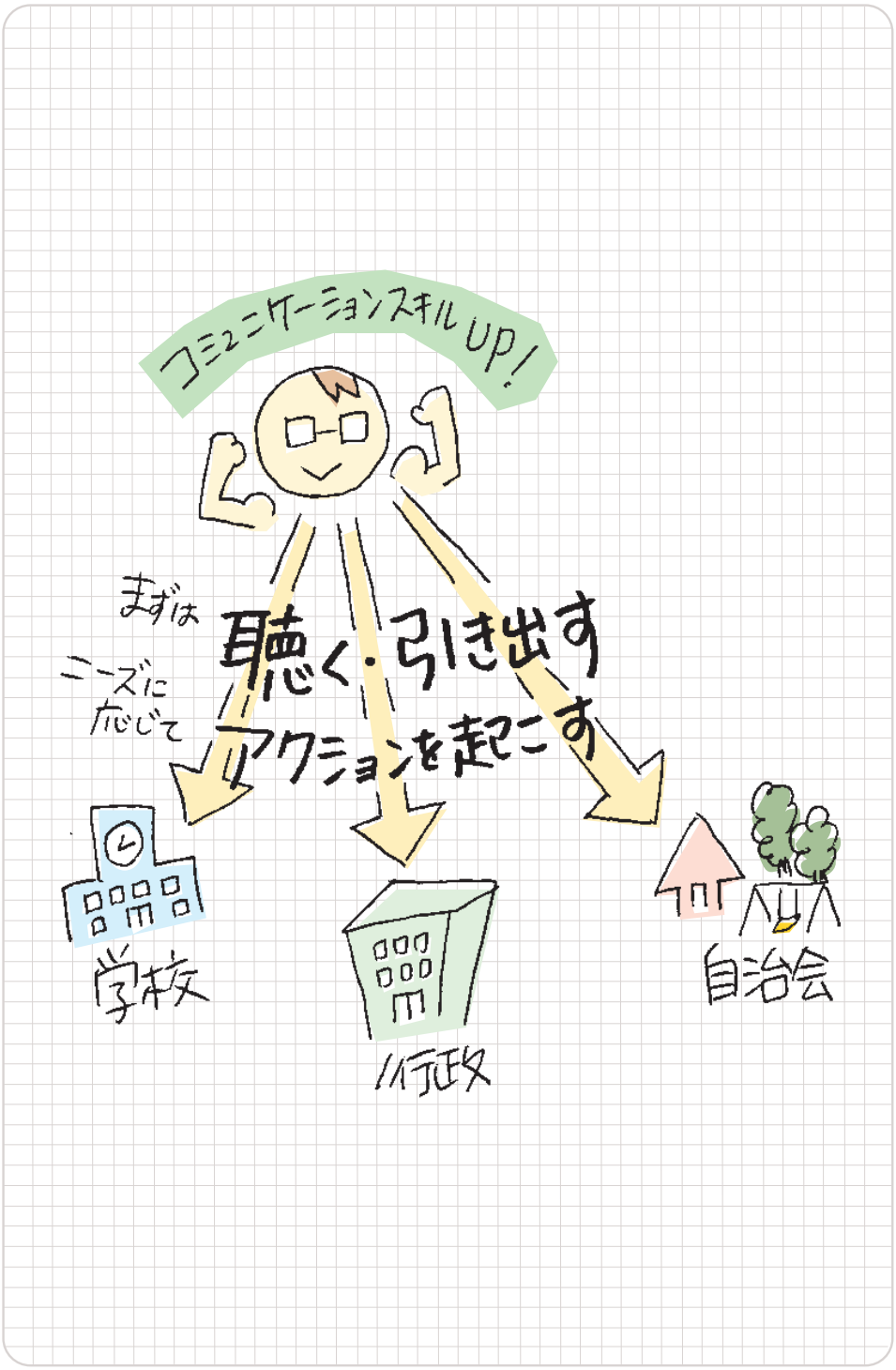
ここでポイントになるのは、「双方向」のコミュニケーションです。歯科医師(会)側から、一方的に地域へアプローチするのではなく、まずは地域の人の声・要望などを聴き、それに応じて歯科医師(会)がアクションを起こすというアプローチがとても大切です。

そのためには、歯科医師側が地域側の声を「聴く・引き出す」というコミュニケーションスキルの向上が不可欠です。歯科医師会としてこの必要性を理解し、バックアップする事業（例：会員向けのファシリテーション研修の開催）の実施が求められます。

ポイント

まずは、歯科医師から地域にアプローチすることが大切！

「地域の会合に積極的に顔を出す」
「歯科保健分野以外の意見交換の場に積極的に参加する」
など、自分たちから地域に歩み寄ることを始めましょう。


コミュニケーションスキルUP!
まずは
ニーズに応じて
聴く・引き出す
アクションを起こす
学校
行政
自治会

は～もに～プロジェクトの活動紹介

新潟市の歯科関係者が立ち上げた劇団

私たち源川劇団は、新潟市の歯科関係者が立ち上げた劇団です。主な構成メンバーは、地域の歯科衛生士、大学の歯科関係者、そしてその友人達です。これまで、長嶺地区のお茶の間サロンや、亀田小学校の文化祭で劇を上演しました。ほぼ劇団未経験者ばかりが集まった私たちが無事に本番を迎えるまでに至ったポイントなどについて、こちらに書かせていただきます。

衣装・小道具

劇経験者の方からお借りしたり、自分達で製作したりしました。極力私物を利用することで経費を抑えました。クッションを利用して製作した下顎前歯部。本番では歯槽骨は段ボール、歯肉はピンクの布をダンボールにかぶせることで表現しました。

練習

本番の３ヶ月ほど前から集まり始め、週に１回、平日の夜７時から練習を行いました。場所は地域の公民館などを使用し、本番直前は追い込みで休日に集まることもありました。

また、元劇団四季所属の鈴木ナナ子さんにお願いし、立ち位置、声の大きさ、BGM の入れるタイミング、動きなどをチェックしていただきました。

演技指導の様子。みんな真剣です。

脚本

小学校で上演した劇のタイトルは、『未来へキックオフ』。サッカー好きの少年少女が集まってサッカーの練習をしていたところ、キャプテンのたけし君だけボールを上手く蹴れません。口の中を見てみると、むし歯だらけ。たけし君はそのことをきっかけに歯医者さんに行き、むし歯の治療をしながら歯を守ることの大切さを学んでいきます。むし歯にならない３つのポイント（おやつ、歯みがき、フッ素）や、ブラッシング方法についても劇の中で指導。亀田小学校では給食後にフッ化物洗口を行っているため、むし歯にならないポ

イントの１つである、「フッ化物洗口」は、見に来てくれた子ども達にもなじみがあったように思います。

演じる上でのポイントは、子ども向けにテンポの良い台詞回しを心がけ、観客を飽きさせないように心がけたことです。また、衣装もアフロヘアーやカラフルな色のカツラを着用したり、アイドルや今流行の芸人、一休さんの格好をしたりと、見た目から子供たちの心を掴むことができるように工夫しました。

お年寄り向けの劇は、『磨く角には福来る』。仲良しおばあさん２人が主人公の劇です。小田福子さんは健康診断の結果が悪く、口の中もむし歯と歯周病でボロボロの状態でした。友人の鶴亀子さんに誘われて歯科医院を訪れた福子さんは、そこで全身の健康とお口の健康が関連していることを知ります。レントゲン写真や歯のイラスト、模型を使用しながら、歯周病とはどんな状態か、また全身にどんな影響を及ぼすかについて、分かりやすく解説しました。

お年寄り向けにはテンポはゆっくりと、同じ単語を繰り返し使用することで、記憶への定着を図りました。また、年齢とともに関心が高まる全身の健康と歯周病を関連付けたストーリー展開にすることにより、歯科に興味のない方でも見ていただけるようなものを目指しました。

BGM

初心者が演じる劇ではどうしても単調になりがちなので、BGM を流したり、効果音を入れたりすることで、演技力のつたなさをカバーしました。また、場面転換でも音楽を流すことで間を持たせることが出来るので、ゆっくりと準備することもできます。音源はCD デッキやパソコンを使用しました。

どちらの会場でも、時折笑い声が沸き起こる、大変良い雰囲気の中で上演を終えることが出来ました。

亀田小学校では１日に２公演を行いましたが、２公演とも見に来てくれた子供達も大勢いました。

こういった、娯楽の中に教育的な要素を盛り込み聴衆を教育していく、エンターテインメント・エデュケーションの手法も地域歯科保健においては大変有効なのではないかと、この劇団の活動を通して思いました。

7 トップや地域の理解が得られないときはどうすればよいですか？

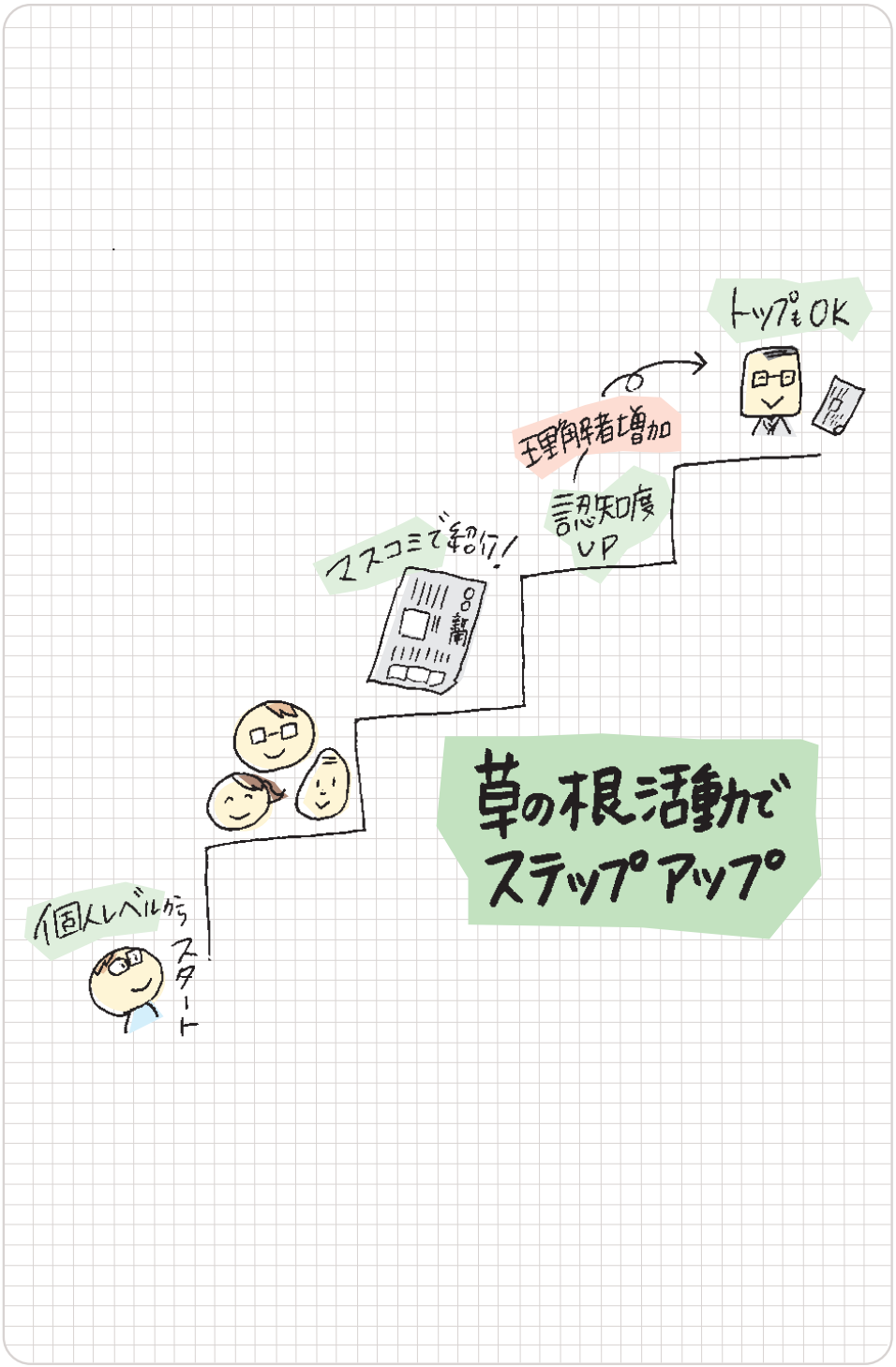
A できることから地道に着実に成果を積み重ねて行きましょう。

〈解説〉

なかなか理解が得られない時は、いきなり組織・地域として取り組もうとせず、個人レベル、草の根レベルでの活動から始めるようにしましょう。地道に成果を積み重ね、それが徐々に実績として認知されるようになると、周囲の考えが変わっていきます。

ここで大切になってくるのは情報発信です。できれば、マスコミを活用して活動の様子・成果を取り上げてもらうようにして下さい。マスコミに取り上げられることで、周囲の評価が一変するケースもありますよ。

こうして周囲の状況が変わり始めたら、頃合いをみて、再度トップや地域に働きかけをおこなってみましょう。


トップもOK
理解者増加
認知度UP
マスコミで紹介!
新聞
草の根活動でステップアップ
個人レベルからスタート

8 地域や住民へはどうＰＲ活動を行えばよいですか？

A ＰＲする相手（ターゲット）を絞り込み、その相手に合わせたＰＲ活動を行いましょう。

不特定多数ではなく
ターゲットを絞り込むことが重要

〈解説〉

地域歯科保健活動の PR 活動で大切なのは、PR する相手（ターゲット）を絞り込み、その相手に応じた PR 方法を展開していくことです。逆に言うと、不特定多数への PR 活動は、地域歯科保健ではあまり効果は上がりません。相手先に合わせた PR 活動を地道に積み重ねていきましょう。

地域や住民との連携には、さまざまな方法があります。は～もに～プロジェクトで過去に行ってきた地域との活動の詳細については、『歯医者さんが、まちづくり NPO に出会った！（新潟日報事業社）』を参照していただければと思います。

具体的には、市民と歯科関係者の意見交換会や検査・測定の体験会、街頭インタビュー、市街地で行われる大規模地域イベントへのブース出展、青年会議所との連携プロジェクト、学校への出張授業や文化祭でのブース出展、歯科保健に関する劇の上演、町内会・自治会が行っている地域住民向け交流会への参加、企業と地域を巻き込んでの出張講演会、地域主導での歯科保健活動への参加など、さまざまな活動を行ってきました。

当初、は～もに～プロジェクトへの参加者の知人を通じて始めた活動も、最近では噂を聞いてのオファーも出始めました。まずは無理せず身近な人とのつながりを通じて広めていく…というのが、スタート地点になるかと思います。

ただ、一番の問題となるのは継続性です。は～もに～プロジェクトでも、担当者の異動や予算の問題で打ち切りとなった活動が多くありました。まずは始めてみる。そして、継続しやすい形を模索する。それが長い目で見た PR 活動に必要なことです。

ターゲットの明確化
学生
企業で働く人
障がい者
子ども
お年寄
保護者
継続が大切!
START
身近な人とのつながりづくり

9 効果的な意見のまとめ方はありますか？

その進行役を
ファシリテーターと呼びます。

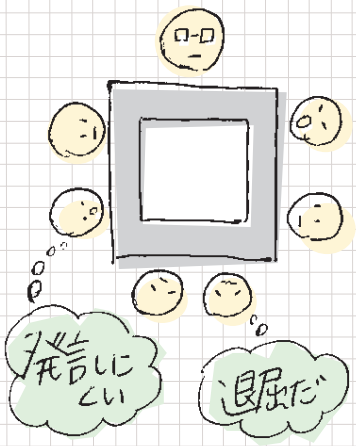
A ワークショップという手法があります。一方的に講師の話を聞く講演会などのような形のセミナーではなく、講義のほか実習、グループワーク、質疑応答などを行いながら進行する、参加者全員が一緒になって体験、体感していく形式のセミナーのことです。

〈解説〉

活動を行う際には、様々な場面で会議を行っていく必要があります。しかし、従来の会議に参加して、「退屈だ」「話が横道にそれる」「一人が長々と話す」「発言しにくい」と不満を感じたことはありませんか？ワークショップは、より効率的で生産性が高く、達成感のある会議を行うため、参加者全員が一緒になって参加できるように工夫された手法です。

「は〜もに〜プロジェクト」では、その中でもファシリテーション・グラフィックという方法を採用しています。これは、大きな白い紙を貼った壁を前面に参加者が扇型に座り、ファシリテーターと呼ばれる推進役とグラフィッカーと呼ばれる記録係が文字やイラストなどを使って話し合いの内容を白い紙に同時進行で記録しながら進めていくものです。耳でとらえる情報がその場ですぐに視覚的に訴える情報として現れるため、参加者同士の情報の共有を可能にし、個々の意見を論理的に考察するのにも役立ちます。また、発想を活性化する手助けになります。

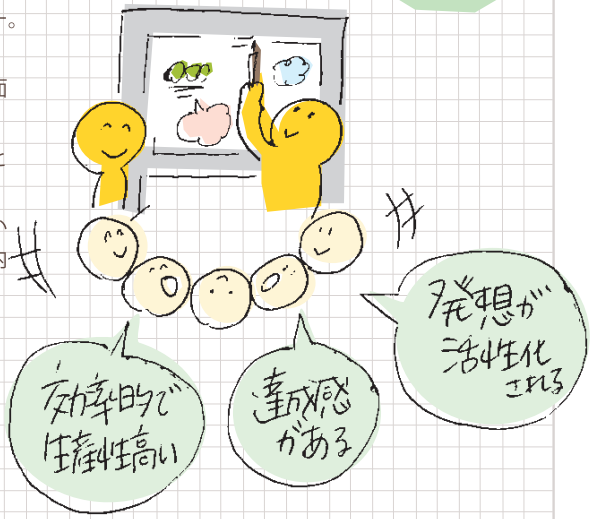
従来の会議



◆会議の進行は議長。
まとめ役、決定権を持つ場合が多い。
◆配置は議長を上座にした円卓方式
（ロの字型やコの字型）。
◆コミュニケーションは言葉による。
◆意見の交換が個人対個人になり、
対立が生じる可能性がある。

ワークショップ（ファシリテーショングラフィック）

◆会議の進行はファシリテーター。
まとめは参加者全員で行う。
◆配置は、壁に貼られた紙を前面
にした扇型。
◆コミュニケーションは、言葉と
視覚情報による。
◆全員が、壁に貼られた紙に向い
ているため、感情的ではなく内
容そのものを話し合いやすい。



10 費用や器具はどうすればよいですか？

A 財団や行政等の助成金を上手に
活用しましょう。
器具については、大学等で有している
ものを借りるのも一つの手です。

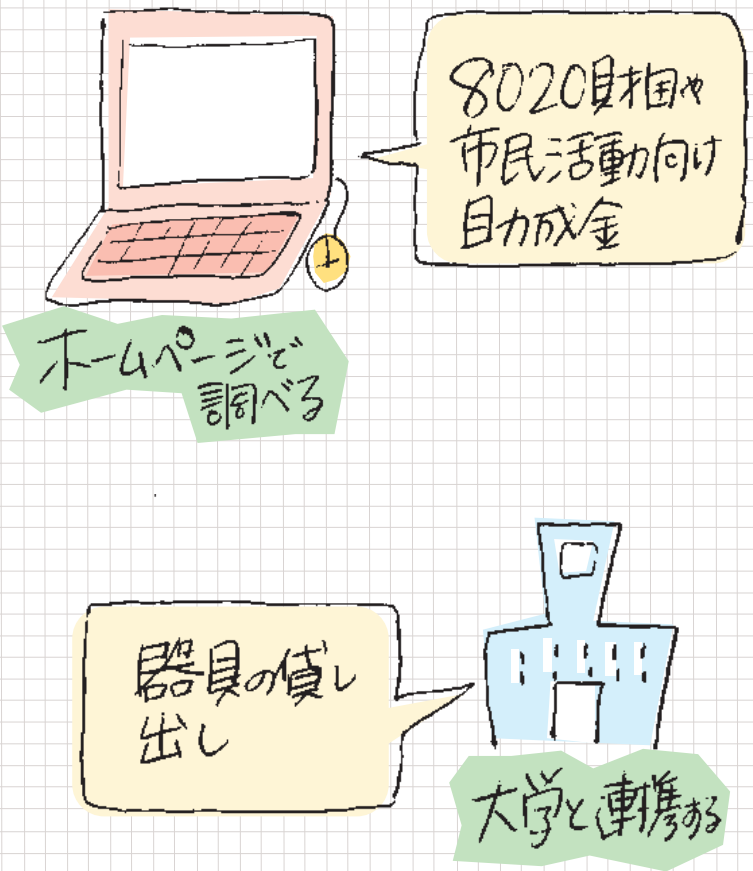
〈解説〉

活動に係る経費については、様々な助成金・補助金を上手に活用しましょう。

また、地域やNPOと連携して活動する場合は、そのNPOや市民活動向けの助成金を経費に充てましょう。行政（県・市町村）や様々な財団など、多くの支援メニューが現在あります。これらの情報は、各県のNPO支援センターのホームページなどに情報が掲載されているので、参考にしてください。

助成金・補助金以外の資金確保の方法としては、自治会などのコミュニティ組織に働きかけ、予算化してもらうという方法も考えられます。ただし、こちらが提案するだけでなく、組織側の理解を得ることに加え、予算化までには一定の期間が必要となるので、注意が必要です。

器具については、大学等で有しているものを借りるのも一つの方法です。これをきっかけにして、大学をも巻き込んだ活動にしていくことも可能です。


8020目標や
市民活動向け
自力成金
ホームページで
調べる
器具の貸し
出し
大学と連携する

住民参加型歯科保健活動のステップ表

2
1

これを何回か繰り返すことでキーマンの発掘・機運の醸成が進みます。

STEP 1
きっかけをつくる
～連携する相手を探そう！～
参考 1 6

特に学校が取り組みやすいよ！

◇学校、行政、自治会、（企業）等への働きかけて、各種行事・イベントへのブース出展を提案しよう。

健康、福祉だけでなく産業、観光関連でも可

STEP 2
イベントに参加して体感してもらう
～歯科保健を身近に感じてもらおう～
参考 5 10

◇歯科保健関連の体験プログラムを必ず入れましょう！

例：咀嚼ガム、リットレメーター、ミラーによる口腔内観察、オーラルディアドコキネス、ブラッシング圧、う蝕リスク判定、口臭測定、口腔内カメラ　等

◇歯科相談は必ず入れよう！（歯科検診は原則しない。ただし要望があれば実施可）

STEP 3
次の約束を取り付ける
～単発では終らせない！～
参考 3 8

◇イベント終了後、必ず次の展開について相談する機会を設けましょう。

イベント開催は数回継続することで、
- ●歯科保健への関心の高まり
- ●相手との信頼関係の構築

が進み、新たな活動展開の機運が醸成されます。

※ただし、初回は「おためし」として無料でも、次回からは有料（経費負担を相手に求める）としないと長続きしませんし、当事者意識も生まれませんのでご注意を。

2 3

住民参加型歯科保健活動のねらい

↓

定期健診の受診率の向上

［定期健診の重要性の認知（普及）、歯科のイメージ向上］

＊医院来院者だけでなく地域（一般住民）への働きかけが必要

＊結果的にはセルフケアの向上、口腔ケアの普及にも通じる

↗

Step1～3の際、訪問診療時の家族へのＰＲ等、可能な限り周辺への声かけを行うと、更なる波及効果が生まれる可能性大！

本取り組みについては、歯科医師会からマスコミに対して継続的にＰＲしていくと効果的です！

行政、自治会、学校、企業、住民ボランティア、サークル等のキーマンの目星がついてきたら …

→

Step 4 キーマンを集めて意見交換会を開く

～地域展開の糸口を探る～

参考 4 9

ここが重要!!

◇多様な主体と連携して歯科保健活動を進めるための糸口を探るために、ワークショップ形式での意見交換会を開催しましょう。

↑

Step 5 地域へ展開させる仕組みをつくる

～歯科保健活動の定着化を図る～

参考 2 7 8

◇多様な主体と連携しながら、地域歯科保健を推進していきましょう。

※ここで重要なのは継続性です。地道に実績を積み重ねることで、地域に着実に浸透し、歯科保健活動が定着していきます。

※継続性を担保するための仕組み化（例：行政での事業化等）についても、積極的に働きかけをしていきましょう。

※活動を展開する際は、
「地域へのＰＲ」
「住民の気づきへの支援」
「地域内の各種組織、団体の連携」
がポイントです。

お口からはじまるまちづくりの「虎の巻」
～住民参加型地域歯科保健活動のスタートアップ～

発 行 日　2013 年 3 月 29 日　初版
　　2013 年 7 月 31 日　改訂版
発　　行　は～もに～プロジェクト実行委員会
制　　作　ＮＰＯ法人まちづくり学校
デザイン　阿宮由子

こういうものが欲しかった。

この冊子は、公益財団法人 8020 推進財団「平成 24 年度歯科保健活動事業助成交付」により作成致しました。